

特別会計決算　－　一般会計からの繰出金は約 3 億 1055 万円

町には一般会計とは別にそれぞれで運営されている 6 つの会計があります。平成 23 年度の決算は下表のとおりです。

平成 23 年度は一般会計から 6 つの特別会計に、合計約 3 億 1055 万円を繰出しています。前年と

比較し 1395 万円減少（4.3％減）していますが、一般会計を圧迫しています。

よって、医療や介護にかかる費用が多くなればなるほど町の負担も増え、一般会計を圧迫する仕組みとなっています。

会 計 名	決 算 額		歳入歳出差額	前年度比
国民健康保険特別会計	歳入	4億2005万円	2914万円	△4.8%
	歳出	3億9091万円		△7.1%
介護保険特別会計	歳入	5億5572万円	1663万円	△3.0%
	歳出	5億3909万円		△3.5%
後期高齢者医療保険特別会計	歳入	5352万円	29万円	1.5%
	歳出	5323万円		1.3%
簡易水道特別会計	歳入	1億1292万円	—	0.8%
	歳出	1億1292万円		△0.8%
公共下水道特別会計	歳入	1億2418万円	—	△8.0%
	歳出	1億2418万円		△8.0%
農業集落排水特別会計	歳入	7004万円	—	1.1%
	歳出	7004万円		1.1%

引き続き、健全な予算運営を図ります

実質公債費比率は22・6^{パーセント}に

4 つの指標で自治体の財政健全化を表す「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、平成 23 年度の各比率を公表します。

4 つの指標のうち、1 つでも国が定めた基準を超えた自治体は「財政再生団体」または「健全化団体」となりますが、日野町はすべての指標で、基準を下回っています。しかし、実質公債費比率は近隣町村に比べ、依然高い状態です。今後、健全な予算運営が求められます。

【実質赤字比率】
一般会計の赤字の程度を指標化したものです。平成 23 年度は黒字決算のため、この比率は生じません。

【連結実質赤字比率】
一般会計、特別会計すべての会計の赤字や黒字を合算し、町全体としての赤字の程度を指標化したものです。平成 23 年度は黒字決算のため、この比率は生じません。

【実質公債費比率】
借金の返済額の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示すもの

日野町の財政 4 指標の数値 (平成 23 年度決算)

	財政再生 基準	早期健全化 基準	日野町 数値
実質赤字比率	20%以上	15%以上	— %
連結実質赤字比率	40%以上	20%以上	— %
実質公債費比率	35%以上	25%以上	22.6 %
将来負担比率		350%以上	81.0 %

【将来負担比率】
町の借入金や将来払っていく可能性のある負担の現在残高を指標化したものです。基金への積立額が増えたこともあり、前年の 111・7^{パーセント}から 81・0^{パーセント}と 30・7^{パーセント}ポイント改善されました。

です。前年の 24・8^{パーセント}から 22・6^{パーセント}と、2・2^{パーセント}改善されました。

事業に取り組んでみて

平成23年度に行った事業のうち、生活交通確保支援と子育て・保小中一貫教育について
担当者が効果を検証しました。

《生活交通確保支援》

中山間地の交通手段として、タクシー助成を開始



企画政策課
副主幹 三好達也

とするよう制度改正を行いました。
これにより申込者が増え、100人程度だった登録者数が年度末には269人と飛躍的に伸び、利用件数も1ヶ月当たり100件前後でしたが、平成24年3月には260件と倍になりました。

平成23年度から日野町タクシー利用者補助制度がスタートしました。開始当初は身体障がい者、介護認定者を中心に65歳以上で公共交通機関の利用が困難な方を対象としていました。

利用者の負担率も身体に障がい者の方が5割、それ以外の方が6割という負担率でしたが、6月1日から身体障がい者以外の方も5割負担になりました。これは障がい者以外の方も運賃の1割引が可能になるよう中国運輸局に要望し実現したもので、中国地方では日野町と八頭町のみが実施しています。

制度開始から半年後には、運用について住民の皆さまからご意見をいただき、12月からは自動車の運転ができない75歳以上の方すべてを対象

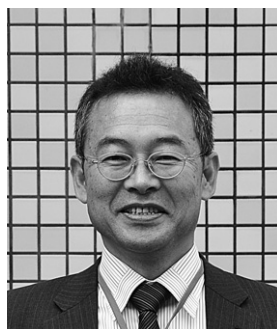
それに伴い、町の補助金額も1カ月当たり5万円前後でしたが、平成24年3月には1カ月当たり約12万円まで増加しました。今まで通院や買い物などバスの利用に不便を感じていた町民の皆さまから、喜びの声を多数いただいています。

交通手段の乏しい中山間地において、行先を自由に指定することができ、時間を気にすることもないタクシーの利便性が受け入れられていると感じています。その料金負担を軽減することで、よりタクシーが利用しやすいと考えられています。

まだ発展途上の制度であり、多くの課題を抱えています。町の交通手段の一つとして定着しつつあるタクシー利用者補助制度を、利用者の声を聞きながら、より良い制度になるよう努めます。

《保小中一貫教育・子育て支援》

子どもたちに“ふるさと日野町”の素晴らしさを伝えたい！



教育委員会事務局
指導主事 其山守美

児や乳幼児への支援や、若いお母さんお父さん方への子育て相談や情報提供が細やかに出来るようになってきました。そして、子育て支援室「おひさまひろば」への参加や保育所への入所がともスムーズに進むようになってきました。

日野町では、平成23年4月から子育て支援室と保育所を教育委員会の所管に変え、『心豊かにたくましく羽ばたく 日野の子の育成』を目指して保小中一貫教育に取り組んでいます。その成果が、随所に見え始めてきました。

まず、保育所や小中学校に新たに図書館司書を配置したことにより、子どもたちへの本の貸し出し冊数が大幅に増えてきました。また、保育所・学校の図書室や読書コーナーの図書環境が格段に良くなってきました。絵本の読み聞かせや学習への図書活用もずいぶん進んできました。

次に、保育所に通っておられないお子さんがいらっしゃる家庭を毎月担当者が訪問することにより、新生

また、『育ちと学びをなめらかにつなぐ保小連携推進計画』を策定することにより、保育所の卒園と小学校の入学が「接続カリキュラム」でなめらかにつながるようになってきました。

そして、郷土学習資料「わたしたちのまち日野町」を作成しました。学校の授業の中で「ふるさと日野町」の歴史や文化、自然、活躍した人物などを調べたり、子どもたちが実際に自分の目で見て、手で触れ、肌で感じられるような体験学習が行われるようになってきました。

少子化、高齢化が進む日野町ですが、将来のふるさとを支え担っていく子どもたちを心豊かにたくましく育んでいくために、町民の皆さんのより一層のご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いします。